

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究・普及
課題名：千葉県沿岸域～伊豆諸島海域におけるマサバ太平洋系群の漁況予報の精度向上			
<p>[要約] マサバのまき網漁獲物（秋冬季）の尾叉長組成から、年明け後のハイカラ釣漁獲物の銘柄組成を予測できると考えられた。また、たもすくい網のマサバ初漁時期の予測精度は、野島埼南東方向の黒潮の離接岸予測を考慮することにより向上すると考えられた。</p>			
フリーワード マサバ，漁況予報，たもすくい網，ハイカラ釣り			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター	資源研究室
	協力機関		
実施期間	2016 年度～2018 年度		

[目的及び背景]

千葉県では、マサバ太平洋系群を漁獲するまき網やたもすくい網を対象に、漁況予報を作成、提供している。今後さらに、マサバたもすくい網漁況予報の精度向上、ハイカラ釣漁況予報の拡充を図るため、関係漁業の漁況情報を整理するとともに、千葉県犬吠埼沖から伊豆諸島海域におけるマサバ太平洋系群の南下期から北上期における生息環境と移動条件を解明した。

[成果内容]

- 1 まき網による漁獲物の尾叉長組成とハイカラ釣による漁獲物の銘柄組成を比較すると、年末にまき網が小型魚主体だと年明けのハイカラ釣も小型魚主体で、また、まき網で大型魚主体だとハイカラ釣でも大型魚主体となる傾向があった（図 1-1，図 1-2）。
- 2 まき網の漁獲物の尾叉長組成がハイカラ釣の漁獲物の銘柄組成を予測する根拠になると考えられた。
- 3 野島埼南東方向における黒潮離岸距離が 60 マイル以上離れている場合には、黒潮が接岸するタイミングでたもすくい網のマサバ初漁があった（2009，2010，2014 年）。
- 4 離岸距離が 60 マイル未満の時には、離岸するタイミングでたもすくい網の初漁があった（2011，2012，2015，2017，2018 年，例として 2015 年を図 3 に示す。）。
- 5 黒潮離接岸と初期漁場の形成時期の関係を加味することで、たもすくい網の初漁時期予測の予報精度の向上が図られると考えられた。

[留意事項] なし

[普及対象地域] 外房ハイカラ釣り漁業者，内房マサバたもすくい網漁業者

[行政上の措置] なし

[普及状況] これらの成果は、12 月に発表する漁海況旬報「千葉県外房海域におけるさばハイカラ釣の見込み」及び 1 月に発表する同「サバたもすくい網漁，棒受網漁の見込み」の予測根拠として利用されている。

[成果の概要]

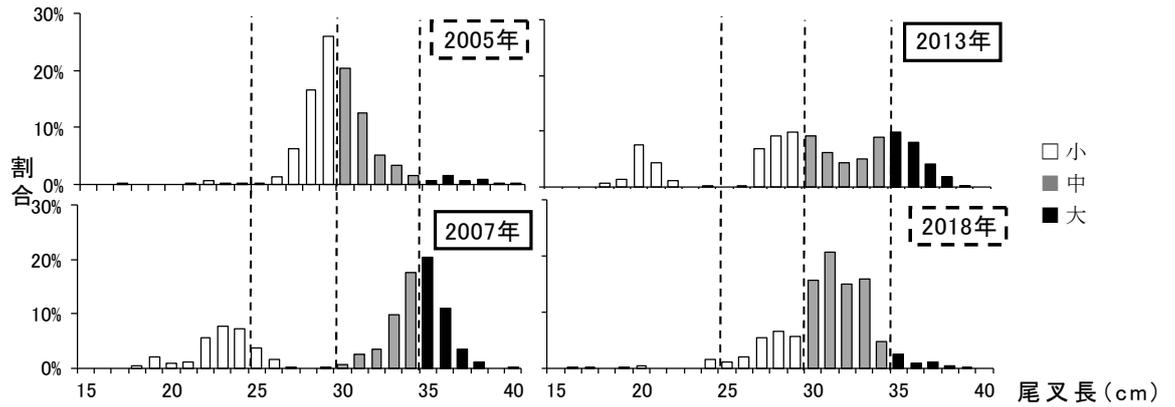


図 1-1 まき網漁業による各年 11～12 月における漁獲物の尾叉長組成

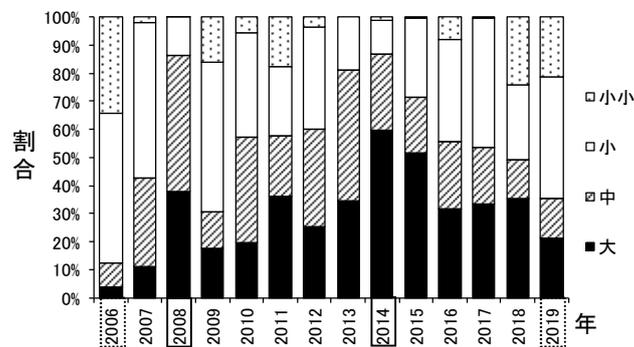


図 1-2 ハイカラ釣漁業による各年 1～6 月における漁獲物の銘柄組成

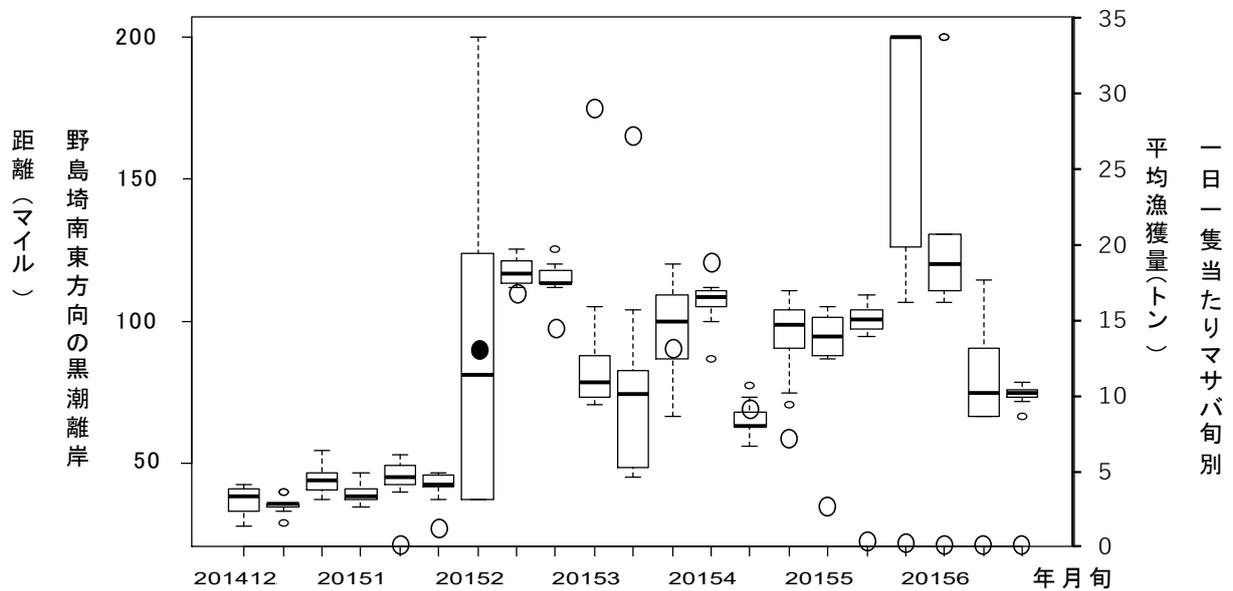


図 1 2015 年における野島埼南東方向への旬別平均黒潮離岸距離とたもすくい網による 1 日 1 隻あたり旬別平均漁獲量の推移 (○は 1 日 1 隻あたり旬別平均漁獲量。黒丸はマサバ初漁があった旬を示す。)

[発表及び関連文献] なし

[その他] なし